

越冬キャベツ品種「湖月 SP」における直播栽培の検討

和寒町農業活性化センター

1 目的

キャベツにおける直播栽培による省力化を検討する。

2 耕種概要

土壌型	土性	排水性の良否	前作物	播種日	移植日	収穫日	
灰色低地土	埴壤土	並	サイトコーン	直播	6月10日	直播	10月3日
				移植	6月10日	7月7日	移植

土壌分析結果

PH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	熱水抽出窒素
6.3	0.09	87.4	45.2	50.4	14.8

施肥	施肥日	施用量 (kg/10a)		
		窒素	りん酸	カリ
移植区	6月9日	12	0	10
移植区	7月7日	12	0	10

病虫害防除、(項目: 薬剤名)

除草剤: 使用なし、手取り除草随時

殺虫剤	殺菌剤
6/10～ダイアジノン5 (直)	
6/30～モスピラン顆粒水溶剤 (直)	
7/2～プレバソフフロアブル5 (直)	
7/7～ジュリボフロアブル (移)	
7/8～ディアナSC (直・移)	
7/17～ハチハチ乳剤 (直・移)	
7/30～ディアナSC (直・移)	7/30～スミレックス (直・移)
8/12～グレーシア乳剤 (直・移)	8/12～アフエットフロアブル (直・移)
8/28～スピノエース顆粒水和剤 (直・移)	8/28～スクレアフロアブル (直・移)
9/5～モスピラン顆粒水溶剤 (直・移)	9/5～スクレアフロアブル (直・移)

3 試験方法

(1)面積・区制

区名	品種	出芽調査	移植時調査	収量調査
直播区 (播種深度1cm)	湖月 SP	10株2反復 1株3粒播き	10株2反復	5株2反復
直播区 (播種深度3cm)				
移植区				

4 結果の概要と考察

(1) 直播後の6月11～12日にかけて19mmの降雨があり、水分が十分保たれ圃場への灌水はしなかった。出芽は順調に進んだ。

- (2) 出芽率は、播種深度が3cm区が優ったが、1株3粒点播の場合では欠株になる区はなく、播種深度が浅くても間引きによる1株1本に揃えることができた。直播については、播種後の土壌水分により出芽率(欠株率)が大きく左右されるので、播種時期の気象情報確認や圃場での灌水等が必須となる。
- (3) セル苗の定植時期比較では、葉長で播種深度1cm区がやや優った。セル苗では、葉長で約2倍、葉数で2枚以上の差があった。
- (4) 直播区は、出芽後の虫害(ウリハムシモドキ)が多く発生し、早期から殺虫剤の散布が必要となった。
- (5) 収穫時調査では、調整後収量は移植区>直播播種深度1cm>直播播種深度3cmの順で優った。調査時期は異なるが、直播区は移植区と比較して小玉傾向であった。調整率は直播播種深度1cm高かった。また、早期収穫で糖度もやや低い傾向であった。
- (6) 直播区は、初期段階で移植区の生育を上回っていたので、その後も生育が進んで9月下旬には裂球する個体も出てきた。このため根切時期前で収穫を終え、越冬キャベツにはせず調査を終了した。直播は、その後の初期生育が促進される傾向があり、播種時期を遅くして越冬性を高める必要がある。

5 具体的データ

(1) 出芽状況調査 (6月26日)

区名	調査株数 (株)	播種粒数 (粒)	出芽粒数 (粒)	出芽率 (%)
直播区 (播種深度1cm)	20	60	50	83.3
直播区 (播種深度3cm)	20	60	53	88.3

(2) 移植時生育調査 (7月7日)

区名	葉長(cm)	葉数(枚)
直播区 (播種深度1cm)	16.2	6.4
直播区 (播種深度3cm)	15.2	6.1
移植区	5.8	4.0

(3) 収穫時調査 (直播区は10月3日調査、移植区は10月30日調査)

区名	調整前 (kg/玉)	調整後 (kg/玉)	調整率(%)	糖度(Brix %)	
				茎葉上部	芯部
直播区 (播種深度1cm)	3.31	2.37	71.6	5.8	5.2
直播区 (播種深度3cm)	2.67	1.81	67.8	5.9	6.1
移植区	3.71	2.64	71.2	6.4	7.6

※各区10玉平均値

6 普及性

- (1) 直播による移植作業の軽減効果は高く、普及性は高い。
- (2) 播種方法については、真空播種機およびシーダーテープの活用等検討が必要。

(担当者：所長 清田雅明)